

**基本施策 健康づくり**

**◆現況と課題**

- 生涯を健康でいきいきと心豊かに生きるためには、子どもから大人まで市民一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、取り組むことが必要ですが、特に働き世代、子育て世代は、健康づくりに時間がとりづらく、自分の健康への意識が低い傾向にあります。自分の健康に関心を持ち、取り組むことができるよう、健康情報の提供や定期的な健診・検診が受診できる環境の整備が必要です。
- 近年の厚生労働省の統計によると、15歳から39歳までの死亡原因の1位は自殺です。心の健康づくり、自己肯定感の醸成を図るとともに、身近な人が悩みを抱えている人に気づき、見守り、支援につなげる人材の育成が必要です。
- 国立がん研究センターのがん統計によると、全体では大腸がん、女性では乳がんの罹患率が高くなっていることから、小牧市では、大腸がん、乳がん検診の受診率を向上する取り組みを進めています。早期発見、早期治療のために、積極的に受診勧奨を図る必要があります。
- 幼児期から保育園等の集団生活に入る子どもが多くなり、感染症に罹患しやすい環境になっていることから、適切な時期に予防接種を接種し、罹患や重症化を防ぐことが必要です。予防接種は種類も多く接種回数等も異なることから、適切な時期に接種できる情報の提供が必要です。
- 子育て家庭の核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育ての相談相手がなく孤立したり、ゆったりとした気持ちで育児ができていないケースが増えています。子育て情報の提供や育児相談、赤ちゃん訪問の実施等、環境を充実させる必要があります。

**◆基本施策の目的及び状態指標**

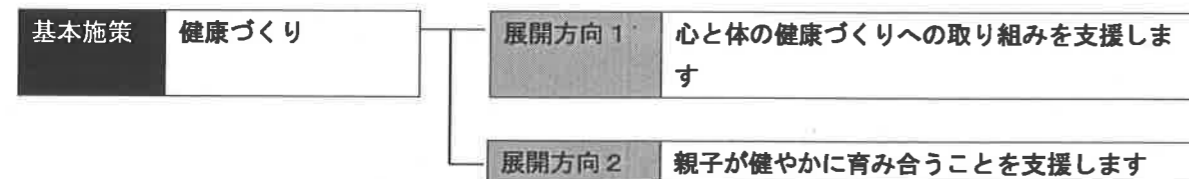
【基本施策の目的：目指すまちの姿】

市民が積極的に健康づくりに取り組み、生涯にわたって元気でいきいきと暮らすことができるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
平均寿命	男性 81.30 女性 86.37	↑
健康寿命	男性 79.92 女性 83.78	↑

**◆基本施策の体系**



**◆展開方向1：心と体の健康づくりへの取り組みを支援します**

【目標】

- 大腸がん、乳がん検診をはじめとする各種がん検診の受診率向上を図ります。
- 自殺予防の担い手を育成します。
- いきいき世代個別歯科健診受診率の向上を図ります。
- 日頃から健康づくりに取り組む習慣を身につけることで、生活習慣病の予防、健康寿命の延伸につなげます。

【手段】

- 健康づくりや生活習慣病予防についての出前講座や健康教育等の機会を利用して、早期発見・早期治療の重要性を周知します。
- ゲートキーパー養成講座を開催します。
- いきいき世代個別歯科健診を充実します。
- 若い年代から健康づくりに取り組めるよう、健康いきいきポイント事業を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
大腸がん検診受診率	14.1%	↑
乳がん検診受診率	4.8%	↑
いきいき世代個別歯科健診受診率	9.6%	↑
ゲートキーパー養成講座受講者数	332人	↑
あいち健康づくり応援カード（まいか）交付者数	138人	↑

**◆展開方向2：親子が心身健やかに育み合うことを支援します**

【目標】

- 利用者支援事業を充実し、子育て世帯を支援します。
- こどもの定期予防接種率の向上を図ります。
- 乳幼児健康診査を通して、母と子の健やかな成長発達の支援をします。
- 地域で安心して子育てができるよう保健連絡員等が家庭訪問をし、親子を支援します。

【手段】

- 予防接種アプリの利用を通じて接種勧奨を実施します。
- 乳幼児健康診査を実施するとともに、安心して子育てができるよう育児相談等を行います。乳幼児健康診査の未受診児については、再度の勧奨や電話、訪問を実施し、全数把握をします。
- 保健連絡員等が、4ヶ月未満の乳児がいるすべての家庭を訪問します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
こどもの定期予防接種率	91.8%	↑
乳幼児健康診査受診率	98.2%	↑

**基本施策** **地域医療**

- ◆現況と課題**
- 小牧市民病院は、尾張北部医療圏の急性期病院として、救急医療、がん診療とそれらを支える高次医療を提供しています。地域包括ケアシステムの実現に向けて、地域の医療機関との役割分担と連携を深めつつ、かかりつけ医、かかりつけ歯科医等への支援や救急車の受け入れ体制の充実及び地域医療の資質向上に努める必要があります。
  - 個々の病状に応じた適切な医療が受けられるよう、重症度に応じた適切な受診行動を市民へ働きかける必要があります。
  - 「在宅医療・介護連携に関する調査」によると、在宅医療の希望及び実現性については、「希望するが、実現は難しいと思う」との回答が38%と最も多くなっています。在宅での医療・介護に関する正しい情報を伝える必要があります。
  - 往診や訪問診療を行う医療機関は少しずつ増加しています。今後は、関係する機関の役割分担に基づいて多職種連携を強化し、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け支援を行う必要があります。

**◆基本施策の目的及び状態指標**

**【基本施策の目的：目指すまちの姿】**

地域の医療機関が機能に応じて役割を分担し、市民のだれもが個々の状況に応じた適切な医療を受けられるとともに、安心して住み慣れた地域で生活できるまちを目指します。

**【まちの状態を表す指標】**

指標名	基準値	目指す方向
在宅等で亡くなった市民の割合	28.2%	↑
往診や訪問診療を行う医療機関数	105 箇所	↑

**◆基本施策の体系**



**◆展開方向1：市民病院の地域医療支援体制を充実します**

- 【目標】**
- 第3次救急医療、地域がん診療連携拠点、地域医療支援病院として医療体制を維持・充実します。
- 【手段】**
- 救急受け入れ体制を確保します。
  - 地域の医療従事者の資質向上を図るための研修を開催します。

**【展開方向の進捗状況を測定するための指標】**

指標名	基準値	目指す方向
救急車受け入れ台数	7,894 台	→
市民病院が開催する地域の医療従事者向けの研修等に出席した院外の医療従事者数	432 人	↑

**◆展開方向2：休日急病診療所を充実します**

- 【目標】**
- 休日急病診療所の適正利用を進めるため、休日急病診療所の受診者のうち急病患者数を増やします。
  - 病状に応じた適切な医療が受けられるよう、休日急病診療所と市民病院の休日救急外来の役割分担を進めます。
- 【手段】**
- 各種媒体を通じて、重症度に応じた適切な受診行動を促します。

**【展開方向の進捗状況を測定するための指標】**

指標名	基準値	目指す方向
休日急病診療所の受診者のうち急病患者数の割合	85.1%	↑
休日急病診療所と休日における市民病院救急外来のうち、休日急病診療所の受診者数の割合	31.4%	↑

**◆展開方向3：在宅医療・介護の支援体制を充実します**

- 【目標】**
- 多様なニーズに対応できる医療・介護の提供体制を整備し、在宅医療等の推進に努めます。
  - 在宅における医療や介護でできることなどについて広く情報提供します。
  - 人生の最終段階を含め、自分らしく生きるために必要なことを家族で話し合うきっかけを提供します。
- 【手段】**
- 医療や介護従事者同士の情報共有の場づくりやサービスの質の向上に向けた研修会等の支援を行います。
  - 医療・介護連携の効率化のため ICT 基盤（電子連絡帳）の活用を促進します。
  - 在宅医療等の推進に向け市民向け講座を開催します。
  - 家族で話し合える「わた史ノート」を普及啓発します。

**【展開方向の進捗状況を測定するための指標】**

指標名	基準値	目指す方向
在宅等で市内医療機関により看取りを受けた市民の人数	118 人	↑
電子連絡帳への登録機関数	102 箇所	↑

基本施策

高齢者福祉

◆現況と課題

- 認知症は誰にでも起こりうる脳の病気で加齢に伴い有症率が高くなることから、今後、高齢者の割合の増加に伴い認知症高齢者が増加することが見込まれます。認知症も他の病気と同様に早期診断と早期対応が大切であるため認知症が疑われる方やその家族と早期に関わる必要があります。
- ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯が増加しているとともに、要介護（要支援）認定を受けている高齢者が増加しています。高齢者自らがいきいきと暮らせる環境の整備が必要です。
- 家族構成の変化により、家族の人数が減少しています。地域全体で高齢者を支える必要があります。
- 介護を必要とする方が増加することが見込まれる中、高齢者が介護予防に積極的かつ主体的に取り組める環境が必要です。

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

地域の支え合いにより、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
要介護（要支援）認定者のうち認知症高齢者の占める割合	39.4%	↓
要介護認定者のうち在宅等で暮らしている方の割合	77.8%	↑
介護や支援を必要としていない高齢者の割合	88.2%	↑

◆基本施策の体系

基本施策 高齢者福祉

展開方向1 認知症の人とその家族に対するサポート力を強化します

展開方向2 高齢者がいきいきと暮らせる環境を整えます

展開方向3 介護予防の環境づくりを推進します

◆展開方向1：認知症の人とその家族に対するサポート力を強化します

【目標】

- 認知症が疑われる人を早期診断・早期対応につなげます。
- 認知症の人やその家族の居場所や交流の場を充実します。

【手段】

- 認知症初期集中支援チームによる包括的・集中的な支援を行います。
- 認知症カフェの開設、運営を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
初期集中支援チームの支援により、6ヶ月以内に受診や介護サービスの利用につながった方の割合	100%	→
認知症カフェの設置数	9	↑

◆展開方向2：高齢者がいきいきと暮らせる環境を整えます

【目標】

- 生きがいづくりと社会で活躍できる場を創出します。

【手段】

- 老人福祉センターなど高齢者が楽しめる場を創出します。
- シルバー人材センターの活動を支援します。
- 老人クラブ活動を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
老人福祉センターの利用者数	179,773人	↑
老人クラブ団体数	69団体	↑

◆展開方向3：介護予防の環境づくりを推進します

【目標】

- 住民主体による介護予防の取り組みを広げていきます。

【手段】

- 小牧市独自の介護予防体操である「こまき山体操」の活用を普及啓発し、介護予防の取り組みを支援します。
- 介護予防の推進役として「こまき介護予防推進リーダー」を養成します。
- 老人福祉センター等で実施する介護予防教室の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
こまき介護予防推進リーダーの人数	27人	↑
こまき山体操実施箇所数	2箇所	↑
一般介護予防教室の参加者数	2,580人	↑

**本施策**

**障がい者（児）福祉**

**◆現況と課題**

- 多くの障がい者（児）が、日常生活の中で、障がいを理由に差別を受けたり、嫌な思いをした経験があります。一方で、障がい者（児）が身近にいない方は、障がいに対する関心が希薄な傾向があります。多くの方が障がいに対して正しく理解できる機会を創出することが必要です。
- 一般就労や就労支援サービスの利用意向が高まっています。障がいがあっても、どこでだれとどのように暮らすかを選択できる環境を整備する必要があります。
- 障がい者本人だけでなく、その家族も高齢化が進んでいます。障がい者が親亡き後も安心して地域で生活できるような環境を整備する必要があります。

**◆基本施策の目的及び状態指標**

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

だれもが相互に人格と個性を尊重することで、支えあいともに暮らせるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
病院や施設から地域へ移行した人数		↑
春日井職業安定所管内における企業の障害者雇用率	1.89	↑

**◆基本施策の体系**



**◆展開方向1：障がいに関する関心を高めます**

【目標】

- 多くの方が障がいを正しく理解し、障がいの有無にかかわらずともに支え合う機会を創出します。

【手段】

- 障害者のスポーツレクリエーション大会へ一般の団体などからの参加を呼びかけます。
- 障害者差別解消法に基づく研修会を開催します。
- 障がい者が成果を発表できる機会を支援します

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
障がい者差別に関する研修の開催回数	2	↑
障がい者の発表機会に対する市の支援回数	0	↑

**◆展開方向2：障がい者の自立や社会参加を支援します**

【目標】

- 障がい者が自立して生活するための生活の拠点や参加の機会、働く場を確保します。

【手段】

- 障害福祉サービスを有効に活用できるようにすることで、本人らしい生き方ができるよう支援します。
- 参加の機会を確保するため、意思疎通支援活動を支援します。
- 障がい者の就労機会の確保と、就労定着を支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
サービス等利用計画等の作成割合	67%	↑
市が派遣する意思疎通支援者を利用した実人数	17人	↑
障害者優先調達法に基づく市の物品等調達実績額	10,240千円	↑
障害者就労施設から一般就労への移行者数	25人	↑

**◆展開方向3：障がい者の家族を支えます**

【目標】

- 障がい者の家族が孤立することなく、安心して生活できる環境を整備します。

【手段】

- いつでも気軽に相談できる体制を構築します。
- 親亡き後や地域生活の受け皿となるグループホームの整備を進めます。
- 成年後見制度などの権利擁護に関する理解を広めます。
- 医療的ケアが必要な方が利用できる体制を構築します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
委託相談支援事業所の設置数	6箇所	↑
市内のグループホーム定員数	95人	↑

基本施策

地域福祉

◆現況と課題

- 地域福祉活動について、ふくし座談会等において、一部の方だけのもの、敷居が高い、なじみがないなどの声があります。地域福祉活動は身近で参加しやすいものであること、また、既に地域福祉活動に参加しているが、それが地域福祉活動と気づいていない方への気づきを促し、地域福祉活動が身近なものであることを周知していく必要があります。
- まちづくり（市民アンケート）調査によると、今後より充実を図るべき取組は、「高齢者や障がい者など災害に支援を必要とする人たちへの支援体制の充実」が最も高い回答でした。要支援者を地域で支える仕組みづくりとその支援が必要です。
- 「困りごとを抱えた方に気づいた際、どこに相談してよいかわからない」あるいは「相談に向くことに抵抗がある」という方もいます。より身近な場所で気軽に相談できる環境づくりが必要です。
- 複雑で多様な課題を抱え生活のしづらさを感じつつも必要な支援につなげていない方が少なからずいます。早期の相談及び多様な主体が関わっていける包括的な自立支援の仕組みづくりが必要です。

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

地域住民がお互いさまの気持ちで支え合うことで、安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
地域福祉活動に参加している市民の割合	33.4%	↑
ボランティア登録者数	4,138人	↑
お互いさまサポーター登録者数	936人	↑

◆基本施策の体系



◆展開方向1：地域福祉活動に触れる機会を増やします

【目標】

- 地域福祉に関心を持ってもらい、地域福祉活動に参加してもらえるよう福祉の体験会や担い手の養成講座などを開催します。
- サロンでのお手伝いや高齢者のちょっとした困りごと支援などの活動に参加する方を増やします。

【手段】

- 子どもたちが福祉への関心を高めていけるよう福祉教育を充実します。
- 各中学校にある「ジュニア奉仕団」やジュニア奉仕団卒団生等で構成する「ココボラ」の活動を支援します。
- こまき支え合いいきいきポイント制度の取り組みを推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
福祉体験学習参加者数（中学生・高校生）	92人	↑
ジュニア奉仕団及びココボラの活動件数	482件	↑
こまき支え合いいきいきポイント制度登録事業所・団体数（H30.10.15現在）	96団体	↑

◆展開方向2：安心して地域で生活できる環境を整えます

【目標】

- 地域に根ざした支え合い活動を推進します。
- 地域福祉活動の核となるような仕組みづくりを推進します。
- 高齢者や障がい者など災害時に支援を必要とする人たちへの支援体制を構築します。

【手段】

- 地域の人たちをつなぎ福祉課題を話し合う「ふくし座談会」の開催を支援し、地域福祉活動の充実につなげます。
- 避難行動要支援者台帳を活用した見守り体制を構築します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
ふくし座談会の実施回数	36回	↑
地域協議会における地域福祉活動数	3箇所	↑
避難行動要支援者台帳の活用に取り組んでいる組織数	6団体	↑

◆展開方向3：相談支援体制を充実します

【目標】

- 身近な場所で気軽に相談できる体制を整備します。
- 生活困窮者を幅広く受け入れる相談体制を構築し、必要な支援につなぎます。

【手段】

- 市内に約70ヶ所ある「ふれあいきいきサロン」に専門職が訪問して、相談機会の拡充を図ります。
- 地域で相談・支援を行う民生委員・児童委員の活動を支援します。
- 複合的な課題を持つ生活困窮者からの相談に対して、生活困窮者支援プランを作成します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
専門職によるサロン訪問回数	36回	↑
相談から生活困窮者支援プランにつながった割合	11%	↑

**基本施策****社会保険****◆現況と課題**

- 小牧市の国民健康保険の保険税収納率は92.5%であり、国が定める被保険者にかかる収納率93.6%より1.1ポイント低くなっています。収納率向上の取り組みが必要です。
- 被保険者の高齢化や医療の高度化等により、医療費が増え続けています。持続可能な医療保険制度とするため、医療費の適正化に取り組む必要があります。
- 高齢化の進展により、要介護（要支援）認定者は増加傾向です。介護保険サービスの基盤整備、給付費や要介護認定の適正化等により、質が高く安定した介護保険事業を運営していく必要があります。
- 介護を受けながら在宅での生活を希望する人が増えています。住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域密着型サービスの整備を進めます。

**◆基本施策の目的及び状態指標**

【基本施策の目的：目指すまちの姿】

だれもが安心して必要な医療・介護が受けられるまちを目指します。

**【まちの状態を表す指標】**

指標名	基準値	目指す方向
国民健康保険税現年収納率	92.5%	↑
国民健康保険一人あたり保険給付費	260,931円	↓
介護保険料現年収納率	99.1%	↑
介護保険第1号被保険者一人あたり保険給付費	168,175円	↓

**◆基本施策の体系****◆展開方向1：健全な国民健康保険制度を運営します****【目標】**

- 国民健康保険税口座振替加入率の向上を図ります。
- 特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上を図ります。
- 医療費の適正化を図ります。

**【手段】**

- 口座振替が未登録となっている人に、継続的に口座登録勧奨を実施します。
- 特定健診及び特定保健指導の対象者に電話や郵送で受診勧奨を実施します。
- 特定保健指導の医療機関での早期実施と委託業者による訪問型指導を実施します。

**【展開方向の進捗状況を測定するための指標】**

指標名	基準値	目指す方向
国民健康保険税口座振替加入率	66.8%	↑
特定健診受診率	44.6%	↑
特定保健指導終了率	16.1%	↑

**◆展開方向2：健全な介護保険制度を運営します****【目標】**

- 介護給付費の適正化を図ります。
- 住み慣れた地域で必要な介護サービスが受けられる基盤を整備します。

**【手段】**

- ケアプランの点検、介護給付費通知、縦覧点検等を実施します。
- 利用実績や施設入所（入居）の待機状況等実情に応じた整備を進めます。

**【展開方向の進捗状況を測定するための指標】**

指標名	基準値	目指す方向
ケアプラン点検の実施件数	70件	↑
地域密着型サービス施設の整備数	34箇所	↑